

キラリ☆ 中野のチカラ

地域おこし協力隊

内山 奈月さん 【毛野川】



地域の皆さんとともに
中野市をPRしていきたい

兵庫県伊丹市から本年8月に中野市へ移住し、地域おこし協力隊として活動している内山奈月さん。

今回は、豊田地域を活動拠点に、地域の活性化・観光振興に取り組み内山さんにお話を聞きました。

○地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊とは、都市部の人材を受け入れ、観光振興や地域行事の支援など「地域協力活動」に従事し、地域の活性化を図りながら、定住や定着につながる取り組みです。豊田特産振興会が管理、運営している古民家、通称「なんだ屋」を活動拠点として、豊田地域に関する情報発信を行っています。

○中野市を選んだきっかけ

幼いころから志賀高原などにスキーで訪れることが多く、とても楽しい思い出が北信地域にあったので、移住するなら「この地域に」という思いがありました。中野市に来る前は、電子機器メーカーで働いていたのですが、大学時代に学んだ「観光分野」でいざれは働きたいと考えており、ちょうど中野市から募集があったので、ぜひやってみたくて応募しました。

移住してみると、地域の方はとても暖かく迎え入れてくれ、採れたての美味しい野菜など毎日いただいています。地域の皆さんのおかげで、緊張していた気持ちもすぐに和らぐことができました。

○これからの活動について

この地域に来て、私が感じている中野市の魅力は、まだ中野市を知らない人たちにとっても魅力的な部分だと思っています。なので、古民家や自然の豊かさなどが私が好きな点を情報発信しながら、地域活性化に取り組んでいきたいと考えています。

また、まだまだ地域のことについて学ぶことが多いので、農作業など地域の方に教わりながら、さまざまな経験も積んでいきたいです。

○市民の皆さんへ

農家の皆さんと一緒に農業体験や郷土料理を紹介したり、さまざまな活動をしていきたいと考えています。この素晴らしい中野市を全国に向けて皆さんと一緒に情報発信していきたいと思っておりますので、これからもよろしく願います。

なお、活動の様子は「中野市地域おこし協力隊」のフェイスブックで紹介しているほか、情報提供がありましたら豊田支所地域振興課総務係（☎383111）までご連絡をいただければと思います。

中野市合併10周年記念

広報クイズ



■今月のプレゼント

「中野市産ぶどう」…2人

問題

中野市のぶどうの収穫量は？

「●●●●ト」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 9月25日(金)必着

※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 第1回 ションションまつりが始まった年は？

答え・・・「昭和49年」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課

秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・
電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.14

遠山茂治さん
からのご紹介



○自己紹介

須坂市で生まれ、中野市にお嫁に
来ました。当時の新保は柳の栽培が
盛んで、我が家でも「柳行季」(柳
で編んだ箱型の入れ物)などを作っ
て商売をしていました。農家の生ま
れで畑仕事は得意でしたが、慣れな
いかご編みなどの仕事で最初は戸
惑ったことを覚えています。

その後、ビニール製品に押されて
柳細工が衰退し、ちようとそのころ
導入されたエノキタケ栽培に取り組
むことになりました。

昭和60年に夫が亡くなったとき
は、孫が2人いたことで本当に寂し
さから救われました。それから、家
業としてのキノコ栽培はやめて家の
事は息子夫婦に全て任せ、私は近所



柳沢 富代 さん (新保)

のシメジ栽培農家
へパートに出まし
た。

平成18年に75歳
でパートをやめ
てからは、少しば
かりの畑で野菜を
作ったり、庭の手
入れをしたり、年

に2、3回旅行に行ったりと、自由
気ままに過ごさせてもらっており、
家族のおかげとありがたく思ってい
ます。



▲庭の花を手入れする柳沢さん

○元気の秘訣

地域のいろいろな会に参加してお
友達とのおしゃべりや運動などを楽
しんだり、着なくなった着物や帯で
洋服や小物などを作り、認知症予防
に手先を使うようにしています。
また、週に3、4回のウォーキン
グも元気の秘訣かなと思います。

○おらほの自慢

中野市は自然災害が少なくて暮ら
しやすく、キノコや果物などの農産
物がとても豊富です。
また、誰もが口ずさめる童謡唱歌
を作った高野辰之、中山晋平の生ま
れ育った地であることも自慢だと思
います。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 25



全国地域ブランドサミットに
参加して

8月22日から2日間、富山県南砺
市で開催された全国地域ブランドサ
ミットに参加してきた。地域ブラン
ドとはいったいなんだろうと皆さん
は疑問を持たれると思う。インター
ネットで調べると「地域を主に経済
的な側面から捉えたときの、生活者
が認識するさまざまな地域イメージ
の総体」などと定義されているが、
私なりに表現すると、中野市と云わ
れてイメージされる自然、人、文化、
産業、農産物、食などが地域ブラン
ドと言えようかと思う。

今、地方創生のなかで、地域力の
創出、地域の活性化が謳われている
が、もともと私たちが暮らすこの中
野市にある「モノ」や「コト」など
を通じて、私たち自身が中野市のア
イデンティティを



再構築し、資源を再
発見することが重
要であるといえる。
サミットでは経
済評論家の西村晃
氏の基調講演があ
り、地域ブランド

に関して、外国人観光客の最近の動
態から説明があった。従来、外国人
観光客は日本にどのような目的で来
訪したかと言えば、京都であったり、
浅草であったり富士山であったりと、
いわゆる観光地主体であったが、最
近は日本人の暮らしそのもの、つま
り「日本人の生活、日常」に興味関
心を持ち、体感したいとの思いから
日本を訪ねる人が多いとの報告が
あった。これは、翻って見ると、私
たちの生活空間そのものが、観光の
目的になるということである。

中野市では祇園祭、市民祭が終わ
り、秋の収穫期に向けて、地域でこ
れから伝統的な祭りのリレーが始ま
る。こうした祭りにもどんどん海外
からのお客さんが参加するといった
光景が全国で広まってきている。来
訪される人を増やし、中野市の産物
を買っていただくためには、私たち
中野市の他地域との違いを発信して
いくことが大切だ。暮らしやすさや
物心両面での豊かさなど私たちの
「日常」を知っていただく。ブラン
ド力は認知度と置き換えれば、まさ
に情報発信力こそが、地域資源の発
掘に加えて、大切だと改めて思った
次第である。